



四国最大の課題先進地「三好市」の スモールコンセプションの取り組み

三好市長 高井 美穂



今日お話しすること

- 三好市について
- 三好市の休廃校活用
- ウマバ・スクールコテージ（旧馬場小学校）
- 三好市のスモールコンセプションの取り組み
- まとめ

三好市：四国最大の課題先進地



721km²

四国最大の総面積

東京23区よりも広大
(森林割合が約90%)

49.2%

高い高齢化率

人口 21,121人
世帯数 11,347世帯

6町村合併

平成18年3月1日誕生

珍しい「飛び地」を有する
中山間地域

世界が認めるポテンシャルと自然環境

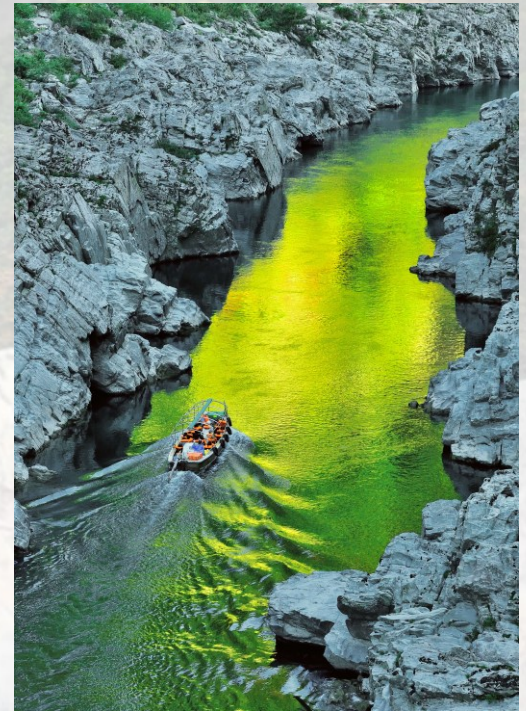
■ 世界農業遺産（2018年） & 日本ジオパーク（2024年）認定

急傾斜地農法など、独自の歴史・文化・伝統が共存。



■ 世界の持続可能な観光地 TOP100選（2023年）

祖谷のかずら橋「3年に1度の架け替え」が環境優良事例に認定。



■ ウォータースポーツの聖地・吉野川

2017年ラフティング、
2018年ウェイクボードの世界選手権を開催。



三好市における休廃校の状況

📈 20年間の変化

平成18年度(2006)

令和8年度(2026)



児童数

1,642 人

▲ 59.1%



672 人



現校数

31 校

▲ 18校



13 校



休廃校数

12 校

+158.3%



31 校

休廃校活用に向けた取り組みの「始まり」

STEP 1

背景・課題



地域危機の顕在化と課題認識

- ・ 児童数の急減に伴い休廃校が増加。
- ・ 学校の消失による地域の衰退。
- ・ コミュニティ活動や地域防災力の低下への強い懸念。

STEP 2

平成22年



市長マニフェストに明確な位置付け

- ・ 当時の市長マニフェストに「休廃校の活用推進」を掲げる。
- ・ トップダウンによる優先課題化。
- ・ 単なる資産管理から「地域再生」への転換。

STEP 3

平成24年4月



地域振興課へ専任職員を配置

- ・ 地域振興課（当時）に職員1名を増員配置。
- ・ 活用事業を専門に推進する「窓口の一元化」を実現。
- ・ 部署横断の調整と民間相談に対応する体制を整える。

STEP 4

平成24年～



制度・ルールの基盤構築

- ・ 休廃校活用に向けた制度や仕組みづくりに着手。
 - ・ 活用基本方針、募集要項の策定。
 - ・ 休廃校等活用推進委員会（組織）の設置。
- 地域意見交換会及び説明会の開催。**

活用の基本方針（H24～）

① 雇用創出と地域活性化

休廃校を地域資源として有効活用し、雇用の創出と地域の活性化を促進。三好市や地域が抱える多様な課題解決の寄与に努める。

② 実情に応じた活用区分

施設ごとの立地や老朽度等の実情を踏まえ、活用の推進や廃止・解体などの方向性を明確に区分し、適正な資産管理を実施する。

③ アイディア・主体の広範募集

休廃校等が持つ有形無形の価値を引き出す創造的なアイデア提案および、事業を担う活用主体（事業者等）を広く公募する。

④ 活用基準と自立負担原則

活用事業に伴う費用等は原則として活用主体の負担とする基準を設定。行政負担を抑えつつ民間の創意工夫を引き出す運用ルールを定める。

⑤ 地域住民の理解と合意形成

休廃校は地域の歴史的・文化的拠点であることに配慮し、事業実施にあたっては丁寧な対話を通じ、地域の理解獲得に努める。

休廃校活用状況（令和8年4月1日現在）

	施設名	事業者	活用事業内容	事業開始日
①	旧太刀野山小学校	県内の株式会社	デ イービス・介護予防事業、コミュニティカフェ	平成25年7月21日
②	旧西宇小学校	市内の社会福祉法人	介護予防事業、サロン	平成25年10月1日
③	旧西山小学校	県外の団体	デ イービス・介護予防事業、コミュニティカフェ	平成26年4月1日
④	旧河内小学校	県外の株式会社	菓子、ジャム加工	平成26年4月1日
⑤	旧有瀬小学校	市内の団体	食品加工・民泊	平成26年9月14日
⑥	旧出合小学校	県外の株式会社	デザイン事務所、カフェ	平成26年9月16日
⑦	旧野呂内小学校	市内の団体	乾燥野菜加工施設	平成31年4月1日
⑧	旧馬場小学校	市内の一般社団法人 （地域再生推進法人）	スクールコテージ及びラボ	令和2年4月1日
⑨	旧落合小学校	市内の団体	雑穀を使用した商品（菓子）の製造開発	令和2年4月1日
⑩	旧大和小学校	県外の有限会社	アートプリント工場	令和2年7月1日
⑪	旧井内小学校	県内の学校法人	通信制学校事業	令和5年4月1日
⑫	旧政友小学校	市内の合同会社	建材・壁材・雑貨の製造販売	令和6年11月1日
⑬	旧佐野小学校	県外の株式会社	建材・DIYマーケット	令和7年8月1日

活用事例(1) 福祉関係施設

- ・ 旧太刀野山小学校
- ・ 旧西宇小学校
- ・ 旧西山小学校

■ デイサービス事業

■ コミュニティカフェ、食堂

■ 介護予防事業（健康教室、
各講座開催）

■ 買い物代行サービス



活用事例(2) 製造工場

・旧河内小学校

→ 柚子・菓子・ジャム加工所

・旧大和小学校 → アートプリント工場



活用事例(3) 地元農業団体生産拠点

・旧野呂内小学校 → 野菜乾燥加工施設

- ・地元農産物（かぼちゃ、さつまいも等）を乾燥加工し、商品として販売



・旧落合小学校 → 雑穀を活用した菓子加工施設

- ・地元農産物（雑穀）を加工し、商品（菓子）として販売

＊世界農業遺産指定地域



活用事例(4) 地元団体による民宿経営等

旧有瀬小学校 → 農産物加工・民泊（楽校の宿 あるせ）



こんにゃく、豆腐作り・加工



宿泊施設

大学生の合宿や外国人が多く利用
地域おこし協力隊とイベント

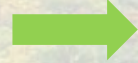
活用事例(5) カフェ・デザイン事業所等

旧出合小学校 → カフェ、デザイン事務所
サウナ、宿泊施設、保護猫ルーム



活用事例(6) アウトレット販売

佐野小学校



(TSUDA CONSTRUCTION CANPANY)
余剰建材・家具などのアウトレット販売



＼ ハンガクヤって？ /
建材・家具・端材などの
新品/中古のアウトレット販売



余ったモノも、まだ使えるモノも、
もう一度流通させる。

＼ 大歓迎 /
専門業者、DIY、一般のお客様
リフォームやDIYをお考えの方
お店作りをしている方におすすめ！



活用事例(7) 通信制高等学校

旧井内小学校

→ 広域通信制・単位制高等学校本校



活用事例(8) スクールコテージ・ラボ事業

旧馬場小学校

企業研修・ワーケーション・大学等の合宿施設



卒業旅行を企画する幹事の皆さんへ

そうだ、「ウマバ」があった！

卒業旅行は仲間だけで思いっきり過ごしたい！

学生の皆さん、そろそろ卒業旅行を企画するシーズンですね。長いコロナ禍で仲間といっしょに過ごす時間も限られた学生時代。最後くらいは仲間だけで気兼ねなく過ごしたいですよね。ウマバ・スクールコテージは1日1組だけの貸切宿泊施設です。吉野川を見下ろすテラスデッキではBBQもでき、体育館もあるのでスポーツやレクリエーションなども自由に楽しむことができます！一生の思い出づくりにウマバ・スクールコテージのご利用をご検討ください。

雲を見下ろす天空の学校



ウマバ・スクールコテージ（旧馬場小学校）

ウマバ・スクールコテージから見た
三好市の朝焼け



ウマバ・スクールコテージ

廃校から生まれた**研修・合宿・ワーケーション施設** 2021年6月オープン！

明治 7年 馬場小創立
 平成 2年 新校舎竣工
 平成12年 創立125年、休校
 平成25年 廃校
 平成30年 大学生グループが廃校活用の「スクールコテージ」を提案
 令和 元年 実証実験
 令和 2年 マーケティング調査、設計・改修工事
 令和 3年4月 プレオープン
 令和 3年6月 営業開始



ご利用者	利用目的	特徴ある地域資源
企業（社会人）	・社員研修 ・ワーケーション ・チームビルディング ・オフサイトミーティング	・雲海がみえる自然環境 ・現地現物型研修（課題発見 / 解決型研修） ・世界チャンピオン指導によるラフティング体験 ・多数進出しているサテライトオフィス など
学生	・ゼミ合宿 ・サークル合宿	・観光先進地（にし阿波観光圏） ・世界農業遺産（平成 29 年認定） ・中央構造線を有するジオパーク候補地 ・日本三大秘境の暮らし、伝統文化 など
スポーツ・文化サークル	・スポーツ大会の参加 ・強化合宿 / 集中練習	・2つのウォータースポーツ世界大会が開催された吉野川 ・池田湖 ・サイクルロードレース「ツールドにし阿波」 ・フォレストアドベンチャー祖谷 ・剣山トレッキング など
その他のグループ	・レクリエーション ・家族連れグループのワーケーション ・勉強合宿	・グループで楽しむ農業体験 ・自然体験（様々な生き物、清流での水遊び、満天の星空） ・ミニベロでのボタリングツアー ・個性あふれる様々な温泉 など

事業化のプロセス

地域再生推進法人（まちづくり団体）の発案から官民対話を重ねて結実した廃校活用モデル

STEP 01

中間団体・キーマンによる発案

三好市認定の地域再生推進法人「**一般社団法人 四国まんなか創造推進協議会**」**丸浦氏**が中心となり、施設利活用の革新的な構想を発案。

STEP 02

官民連携による対話と構想策定

行政と中間団体・企業が**対話を幾度も重ね**、企業・学生が集う「研修施設」としての活用価値を見出し、具体的な事業構想を熟成。



🌱 官民共創の成功要因

認定まちづくり団体（四国まんなか創造推進協議会）がハブとなり、行政（三好市）と民間の深い対話を通じて生まれた持続可能なスモールセッション事例

官民共創で突破した「3つの壁」

①地域住民の理解

- ・三好市主催の説明会×地域密着の中間団体
→行政の関与を明確化し、住民の不安解消

②資金調達（3,000万円超）

- ・交付金補助（1/2）＋地銀融資（1/2）
→官民連携の信頼

③利用促進

- ・推進協議会×三好市による利用促進活動
→都市部の企業・学生、公的機関、各種団体へのPR

使い方は自由！

企業向け：〈社員研修〉〈チームビルディング〉〈ワーケーション〉など
学生向け：〈ゼミ合宿〉〈サークル合宿〉など
ほかにもスポーツ団体や音楽や趣味のサークルの練習やレクリエーション等

主な施設

- ・宿泊収容人数：32名
- ・研修室：36名
- ・シェアワークスペース
(TV会議ブース席あり)
- ・サテライトラボ：3室
- ・体育館
- ・展望デッキテラス
- ・全館WiFi完備



宿泊室（カプセルホテルタイプ）



研修室（和室タイプ）



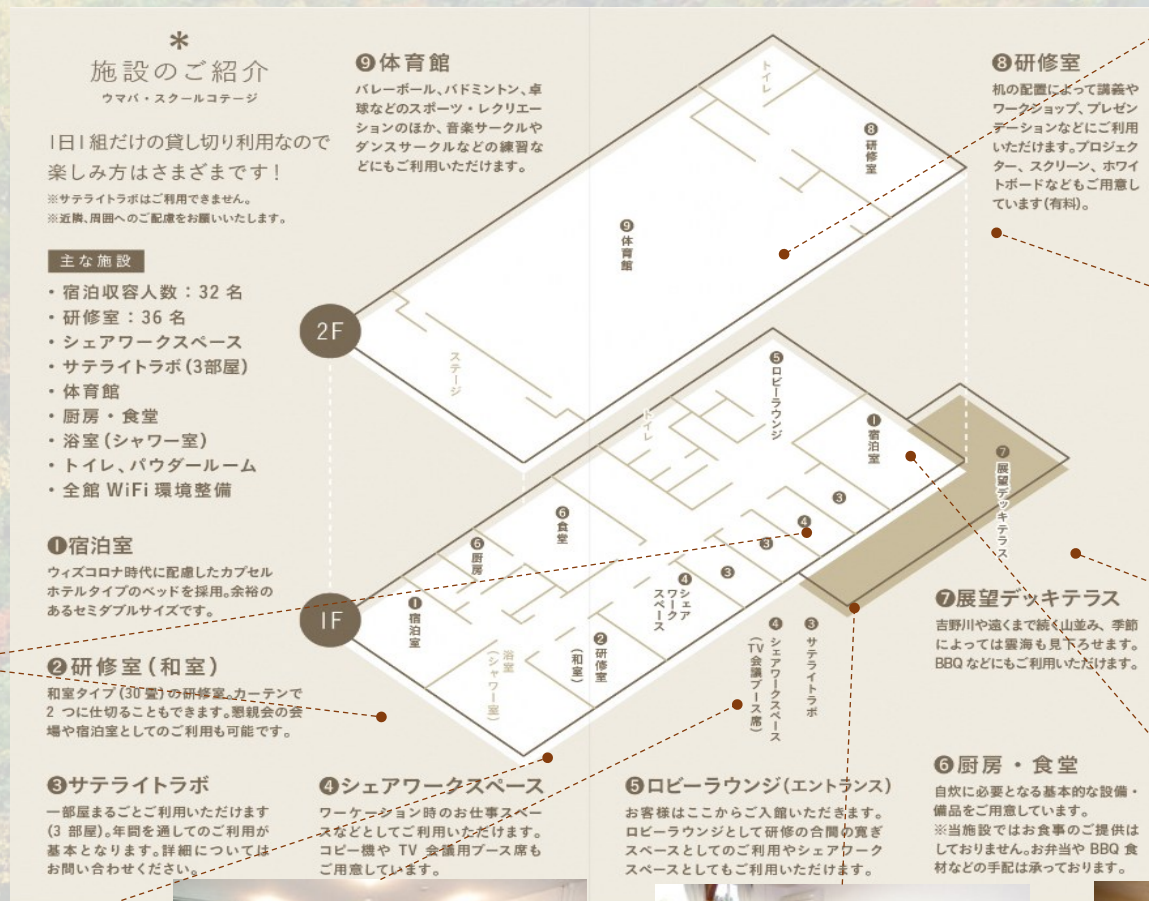
シェアワークスペース



サテライトラボ



ロビーラウンジ



※写真は全てイメージです。



体育館

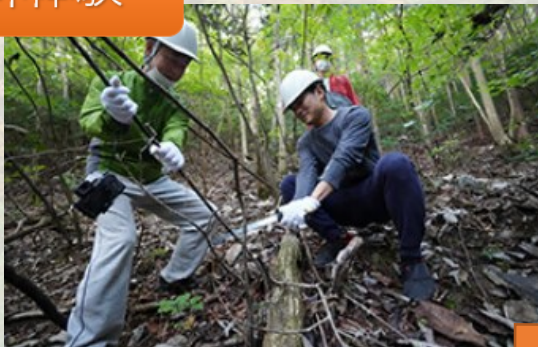


研修室



展望デッキテラス

森林体験



護摩焚き体験



リモートワーク



狩猟体験



ラフトレ



テントサウナ



拠点



学習、ミーティング



体育館



ウマバプロジェクト

～環境配慮型ワーケーションモデル創出事業～

■主体

環境配慮型ワーケーションモデル創出会
(参加企業)

河村電器産業、国際航業、シーラソーラー、
ソニーコンピュータサイエンス、四国電力、
村田製作所、徳島文理大学、丸浦工業、
三好市役所ほか

■目的

徳島県三好市の中山間地域を実証エリアとし産学
官及び地域が連携して地域課題解決をテコに新た
な価値を創造するプロジェクト。
再生エネルギーの活用を切り口に 2022年から
「人流創出」「脱炭素」「防災減災」に取り組む。

■概要

太陽光発電をもとに「お裾分けシステム」や遮光
率（30%、100%）を変えたスマート農業などの
さまざまな実証実験を行う。
また、災害時を想定し自立型のバイオトイレの導
入など行う。
地域未来交付金での支援。



ウマバプロジェクト会議（報告会）



参加企業から研究報告



最終調整するメンバー



完成したソーラーシェアリング



キャンプ砂防 in 四国

～インターンシップ型～

■ 主体

国土交通省四国地方整備局
四国山地砂防事務所

■ 目的

キャンプ砂防は、中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的として1996 年より実施している。

■ 概要

ウマバSCでは2022年より受入れを行っており、毎年、全国の高専、大学（院）から5～6名の学生が参加し4泊5日のプログラムを体験している。地域の特徴や課題などを理解していただけるよう市長の講話、車座ミーティング（カジュアルな意見交換の場）、ジオガイドによる市内ツアーなどを実施している。夕食時には、ジビエ料理などの提供を行い害獣問題を地域の特産に転換する工夫などを知っていただく機会としている。



ウマバSCにチェックイン



高井市長の講話



車座ミーティング



早朝の散歩



ジオガイドから地質に関する説明を受ける



ワーケーショントライアル

～働き方改革へのチャレンジ～

■ 主体

住友商事労働組合

■ 目的

働き方改革としてワーケーションに注目、全国の候補地のなかから三好市を選択。日常とは異なる環境のなかで地域の文化や暮らしなどから多様な価値観を感じとり普段の暮らしや業務に活かす。

■ 概要

3泊4日の滞在期間中、市内を精力的にまわり、視察やヒアリングなど地域研究を行い課題解決の提案に繋げるとともに地域ならではのリラクゼーションも体験。



まちの課題検討



事業者・起業家へのヒアリング



護摩焚きを体験



リモートワーク対応住宅の見学



焚き火



三好市のスモールコンセプション（官民連携）の 代表的な取り組み

「金利のある世界」におけるスモールコンセプション



大規模PFIの限界

金利上昇局面において、大規模PFIは事業者のリスクが増大。



事業者が敬遠



小規模化・リスク分散

休廃校活用

民間の創意工夫

合併浄化槽

PFIの導入

一般廃棄物処理

銀行＋BOO方式



民間の創意工夫・意欲や資金を最大限に活かした**小規模なPPPこそ、**
これからの**小規模自治体の課題解決**にとって**有効**な手段。

三好市PFI公共浄化槽の概要

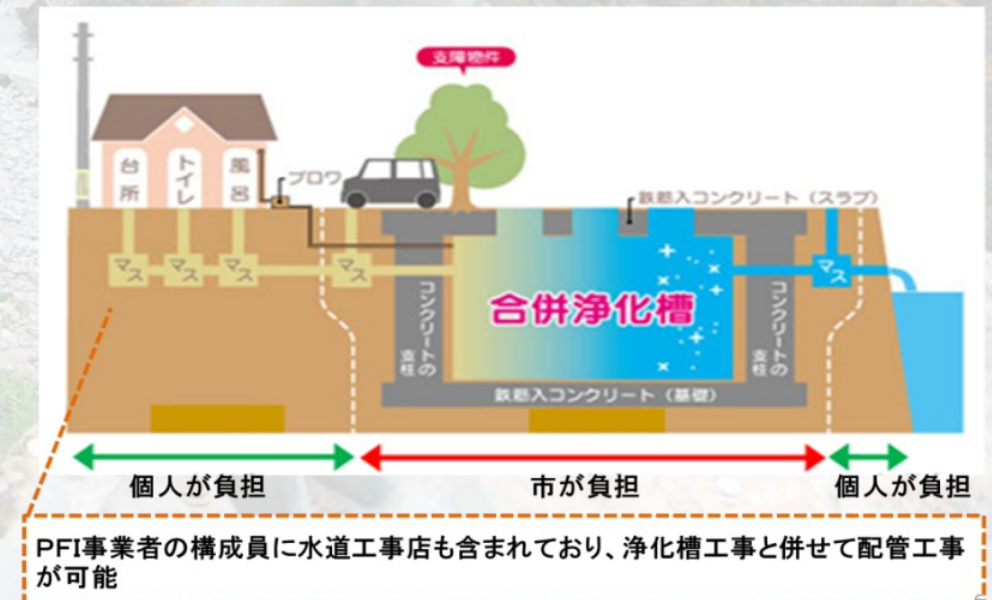
1. 事業内容 公共浄化槽（市町村型）を P F I 方式で実施
2. 事業期間 16年間（2015（H27）年4月～2031（R13）年3月）
3. P F I 方式 B T O方式（国の補助基準）
4. S P C（特定目的会社）（株）三好浄化槽ネットワーク
5. 事業内容

B→T→O方式		
Build （建てて）	Transfer （移転して）	Operate （管理・運営する）

- (1) 浄化槽の設置 目標基数 2,720基
 - (2) 浄化槽の維持管理
 - (3) 使用料の徴収
6. 事業区域 三好市全域
 7. インセンティブ・ペナルティ

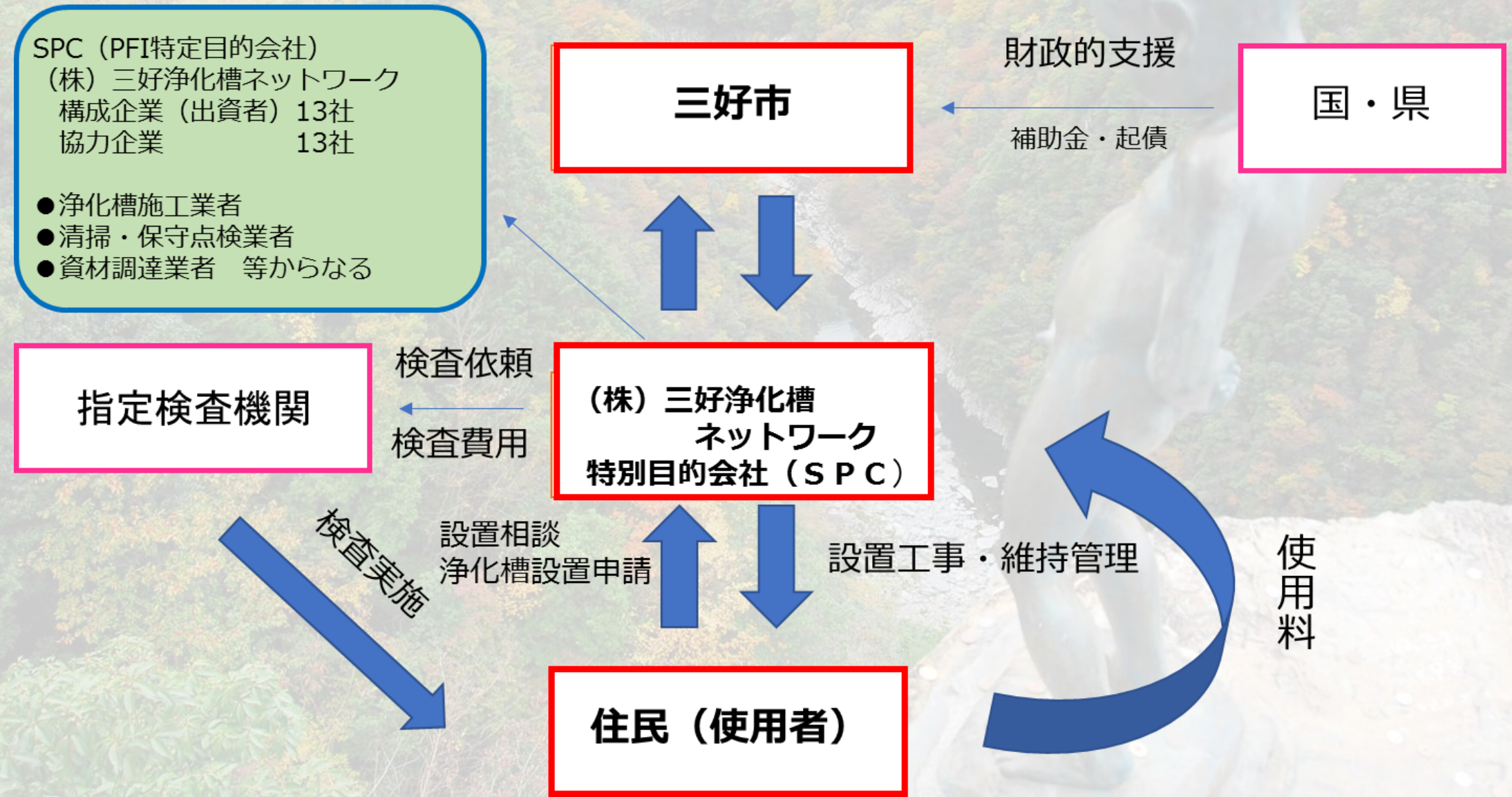
→設置基数・管理状態・使用料徴収の
達成状況により委託料等を増減する

【事業の負担区分】



三好市PFI公共浄化槽の概要

PFI方式のスキーム



公共浄化槽PFIによる分散型インフラ整備

■ 公共浄化槽の実施に至った理由

1 広大な面積×急激な人口減少

広大な面積に集落が点在
使用人口の将来的な減少

2 市内排水処理方式の複雑化

個人設置、市町村（直営）設置、
市町村型（PFI）、農集などが混在

**集合処理の限界
事務の煩雑化**

■ 公共浄化槽PFIのメリット

行政

計画的な浄化槽整備の実現
汚水処理率の向上
事務負担・事業コストの縮減

民間

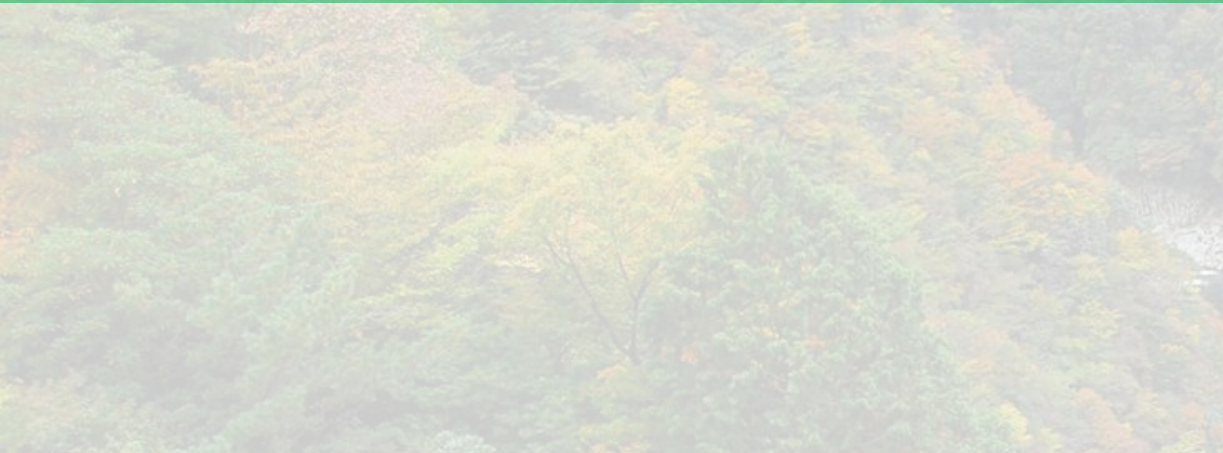
安定した事業量の確保（SPC発注）
スケールメリットによるコスト減

住民

設置期間の短縮化
住民負担（経済的・手続き）の軽減

- ・ 個人宅浄化槽を行政が整備（官民の役割再構築）
- ・ SPC方式導入により民間の力を活用
- ・ 公共浄化槽（分散型インフラ）整備へ

みよし広域環境センター「みよクル」



完全民間主導による一般廃棄物処理施設

株式会社明和クリーン

県内初※PIF適用
シンジケートローン

33億円

商工中金主幹事の6機関協調融資。
ごみ処理施設建設計画を強力に支援。

※PIF＝ポジティブ・インパクト・ファイナンス
国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)に
貢献する企業活動を支援する融資。



全工程の民間実施

本来自治体が行う生活環境影響調査等の全プロセスを民間が実行。



全国初の事業モデル

一般廃棄物処理を民間が単独で担う
国内初の革新的アプローチ。



高い社会的意義

自治体の財政と実務負担を抜本的に
軽減する新たな官民連携の形。

自営施設整備の難航

④ 施設の老朽化

運用開始から**約40年**が経過。施設の老朽化に伴い、新たな施設整備が**喫緊の課題**。



⑤ 地元対立と建設断念

候補地にて2年間で**6回の住民説明会**を実施。
地元住民の**90%が反対**し、従来の建設構想を**断念**。



(焼却施設の耐火煉瓦の崩落箇所)

民間提案による民設民営施設の誕生

1

民間事業者からの提案

令和 3 年

(株)明和クリーン（産業廃棄物処理業者）より「ごみ焼却施設構想」の**自発的提案**を受ける。

2

一般・産廃の複合計画

令和 3 年

明和クリーンより**一般廃棄物・産業廃棄物**両方を効率よく処理可能な「設置計画」及び「事業提案書」が提出された。

3

20年間 長期基本協定

令和 4 年

令和 8 年～28 年度（**20 年間**）の一般廃棄物（可燃ごみ）処理業務**基本協定を締結**。



人口減少に対応したフレキシブルで持続可能な廃棄物処理インフラ

みよし広域環境センター「みよクル」本格稼働

令和6年7月

契約締結・着工

(株)明和クリーンと(株)プランテック間での工事契約を経て新施設建設を開始。

令和8年7月

火入れ式・竣工式

一般・産業廃棄物焼却施設が完成。

令和8年11月

本格稼働

主要設備



ごみ計量機

収集されたごみを入退場時に自動的に計量・記録し、集中管理します。



自走式破砕機

プラットフォームに運ばれた家具や布類などの粗大ごみは自走式破砕機で破砕した後、ごみピットへ送ります。



プラットフォーム

施設へ搬入されたごみは投入シャッターからごみピットに投入します。



ごみピット・ごみクレーン

ごみピットに溜められたごみをごみクレーンで攪拌して均質化し、焼却炉へ供給します。

ごみクレーン操作卓



焼却炉(堅型ストーカ式)

焼却炉内に供給されたごみは、焼却炉の下方から高温の燃焼空気を均一に供給して安定燃焼します。

燃焼状況



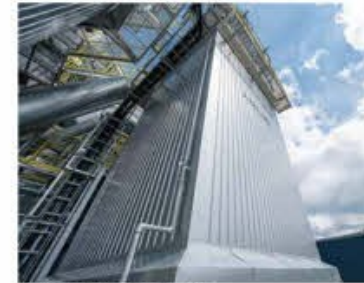
温水タンク

ごみを燃やした熱により水を温めて温水を作り、施設内の給湯や暖房の熱源として有効利用します。



ガス冷却室

高温の排ガスを急速冷却させる水は、施設内での汚水を再利用水として噴霧しています。



集じん装置(バグフィルタ)

消石灰や活性炭を吹き込んだ排ガスをろ過し、排ガス中に含まれるばいじん、硫黄酸化物、塩化水素等の有害成分を取り除きます。



排気筒

クリーンになった排ガスを排気筒から空気中に放出します。



中央制御室

コンピュータで、設備の運転を24時間管理しています。運転データや各機器の状況を適確に把握し、安全に運転します。



事務所棟



人口減少社会におけるインフラ

「課題先進地」三好市におけるインフラ整備の再考

■ 民間需要との的確なマッチング

行政主導の押し付けではなく「民間の望む条件・活用形態」を柔軟に聞き入れ、何の支援ができるかを協議した上での事業化。

■ 民間・行政・住民が無理なく協力できることをする構造をつくる

地域プレーヤーが、民間の知恵と資本で地域のために自走できる基盤づくり。多くは稼げなくても、持続でき、住民に感謝されることが大事。



従来型インフラ整備の再考



スモールコンセプションこそ有効な手段

1 地域課題解決の糸口

民の課題と地域の課題を広域の官民連携で解決

2 地域の資金を循環させ、地域でメリットを享受

個人や民間と行政の役割分担を見直し、地域企業が投資できる仕組みづくり

3 「効率追求」中心の公共投資からの脱却

人口減少社会に対応したフレキシブルな自立型インフラ整備